

謹賀新年





年頭のご挨拶

公益社団法人 浦和法人会

会長 池田 一義

あけましておめでとうございます。

新しい年を迎え、会員の皆様におかれましては、新春の門出を健やかに迎えにいられたことと謹んでお慶び申し上げます。また、法人会の諸事業につきまして、日頃より一方ならぬご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、2024年の世界経済は、インフレ圧力の鈍化と労働需要の鈍化を受けた欧米各国中央銀行による利下げへの政策転換等を背景に、全体としてはソフトランディングに成功し、低成長ながらも底堅さを維持しました。

しかし、今後、政治経済とも不確実性が高まっていくと考えております。ウクライナ・中東情勢は依然として膠着状態にあり、中国ではGDPの3割を占めると言われる不動産関連市場の低迷が続いています。何より、米国においては、昨年11月に行われた大統領選挙で自国第一主義を掲げるドナルド・トランプ前大統領が再び返り咲く結果となりました。このように世界には景気を大きく揺さぶるであろう様々なリスクが点在しており、今後、世界の政治経済の方向性は大きく変わる可能性があります。

日本においては、コロナ禍で大きく歪んだ社会経済が正常な姿を取り戻し、足元では緩やかな景気回復が続いています。昨年は、日経平均株価がバブル期以来となる最高値を更新し、また春季労働交渉では33年振りに5%を超える賃上げ率を実現するなど、デフレ脱却の兆しが見えた一年でした。日本銀行による政策金利の変更や物価・為替の動向、不安定な政権基盤など、先行きの不透明さは残るもの

の、賃上げ効果による実質所得の増加と個人消費の持ち直し、企業の設備投資等を背景に景気は拡大傾向にあり、内需主導で緩やかな回復基調が継続するものと見ております。

さて、昨今、法人会会員の太宗を占める中小企業の経営環境は目まぐるしく変化しております。諸物価高騰や人手不足、人口減少、後継者問題など経営者には様々な課題がしかかり、以前にも増して企業の舵取りは困難なものとなっています。しかしながら、企業が持続的に成長していくためには、外部環境変化や多様化する社会のニーズを的確に捉え、自身のビジネスを適合させていくことが重要です。

浦和法人会では、会員の皆様と共にこの難局を乗り越えるべく、今まで以上に皆様のご意見やご要望をお聞きし、皆様の成長のお手伝いをしてまいります。同時に、会員の皆様に寄り添いながら、法人会活動を盛り上げて参ります。

2025年の干支である蛇は、皮を脱ぎ捨て新たな姿に生まれ変わる姿から、再生や永遠の象徴とされています。また、巳年は新しい挑戦や変化に対して前向きな姿勢を示す年と解釈されています。私たち法人会は基本理念である「税のオピニオンリーダー」としての責務を全うすべく、皆で力を合わせて試行や変革に前向きに挑戦して参ります。そして、会員の皆様にとって魅力のある、そして地域にとって存在感のある団体であり続けたいと思います。

本年も法人会活動に引き続きご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、会員の皆様のご健勝とご多幸、事業のご繁栄を祈念いたしました。年頭のご挨拶とさせていただきます。



副会長

鈴木 久雄



副会長

志村 宜洋



副会長

秋本 清一



副会長

山崎 政次



副会長

小谷野 堅太郎

(順不同)



年頭のご挨拶

浦和税務署

署長 谷田川 成揮

令和7年の新春を迎え、謹んでお祝い申し上げます。
公益社団法人浦和法人会の皆様方、ご家族様におかれましては、良き年をお迎えになられたこと心からお慶び申し上げます。

旧年中は、池田会長をはじめ役員の方々や会員の皆様方には、税務行政の円滑な運営に対し、深いご理解と多大なご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

浦和法人会におかれましては「地域の発展と活力ある法人会をめざす」のもと、税に関する各種研修会の開催、租税教室への講師派遣、「税に関する絵はがきコンクール」の実施など、租税教育事業に力を入れていただき、正しい税知識の普及並びに納税道義の高揚に多大な貢献をいただきました。

今後とも、地域社会に密着した魅力ある会運営により活力のある組織が築かれることをご期待申し上げますとともに、皆様方と連携・協調を図りながら法人会活動に協力して参りますので、引き続きのご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、国税当局では、経済社会の変化やデジタル技術の進展などを踏まえて、令和5年6月に「税務行政の将来像2023」を公表し、「納税者の利便性の向上」と「課税・

徴収事務の効率化・高度化」に、新たに「事業者のデジタル化推進」を加えた3つの柱に基づいて、税務行政のDXに取り組むこととしております。

「あらゆる税務手続を税務署に行かずにできる社会」を目指して、税務を起点とした社会全体のデジタル化を一層推進していくこととしておりますので、浦和法人会の皆様におかれましては、引き続き、ご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

まもなく、令和6年分の所得税等確定申告の時期を迎えます。本年から、事業主の方が給与所得の源泉徴収票をe-Taxで税務署に提出いただけますと、給与所得の情報も自動入力の対象となり、従業員のほうがより便利に確定申告書の作成をすることができます。納税者の皆様は「より便利に、よりスムーズに」申告・納税できるよう取り組んでおりますので、是非とも、法人会会員の皆様、また各法人の従業員の皆様には、マイナンバー方式によるご自宅からのスマホ申告・e-Tax申告と納税はキャッシュレス納付をご利用いただければと思います。

結びに当たり、令和7年が皆様方にとりまして幸多き年となるよう祈念申し上げます。新年の挨拶とさせていただきます。



\\さらに便利に!\\

電子納税証明書(PDF)が スマホで請求&受取できる!

電子納税証明書(PDF)は、お手持ちのスマートフォンやタブレット端末からもe-Tax(SP版)を使って、請求から受取まで簡単な操作でできますので、是非ご利用ください!



メリット ①

いつでもどこでも!

スマホで 完結!

タブレットでも!



メリット ②

手数料が お得!

1税目1年度あたり**370円**

※書面での請求の場合は、
1税目1年度1枚あたり400円

メリット ③

期間内であれば 何度でも 印刷・使用可能!

※コンビニエンスストアの
印刷サービスを利用する場合には、
別途手数料がかかります。

ご利用に当たっては、納税者本人(法人の場合は代表者本人)の
マイナンバーカードが必要です。

スマホを利用した電子納税証明書(PDF)の請求は、本人(法人の場合は代表者本人)のみ行うことができます。
代理人の方はお手持ちのパソコンから請求してください。



詳しい手続きの仕方はこちらから

読み取れない場合はこちらから <https://www.e-tax.nta.go.jp/e-taxsoftsp/e-taxsoftsp.htm>



暑過ぎず、寒過ぎず

埼玉県環境科学国際センター 総長
 東京大学名誉教授
 植松 光夫

暑さ寒さも彼岸までと言って、そのころには過ぎやすい適温のイメージがあります。でも春の彼岸前後の最高気温は15・4℃、秋の彼岸前後は25・1℃と10℃も違います。冬の寒さや夏の暑さへの身体の適応性や慣れのせいでしょう。

観測史上の都道府県別の最高気温は、埼玉県と静岡県が一位、共に41・1℃でした。もっとも低い最高気温は沖縄県の35・6℃。北海道よりも低いのは意外ですが、周りが温度変化の少ない海に囲まれているからです。地球温暖化が進むにつれて、猛暑日の日数は増えています。が、気温もまだまだ高くなるのか案じられます。

二酸化炭素やメタンは長寿命温室効果気体と呼ばれ、地球温暖化の主な原因とされています。この対策として、二酸化炭素を増やさないカーボンニュートラルや、排出のゼロを目指すデコ活（脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動）など、すでに削減の取り組みが行われています。しかし2050年頃までは、対策の有無によるはつきりとした気温変化は見られず、大きな差が出てくるのは2100年頃と予測されています。つま

り、まだまだ気温は下がらないのが実情ですが、原因になっていく二酸化炭素濃度の方は下がりがつつあるのでしようか。

埼玉県では、大気常時観測を行なっている堂平山にある東秩父局と環境科学国際センターにある騎西局の2箇所、大気中の二酸化炭素の高精度の測定を20年以上続けてきました。その結果は、図に示すように、地球平均や東秩父局に比べ、騎西局の二酸化炭素濃度が年々減少しており、埼玉県が見積もる年間二酸化炭素排出量の減少とよく合うことがわかりました。埼玉県民をはじめ、日本人の努力が目に見えた成果だと言えます。でも、もし地球上で二酸化炭素がなくなったら、地球の平均気温はマイナス19℃まで下がってしまうんです。ただただ二酸化炭素を減らせばいいわけではなく、やはり加減というものが必要です。一体、いつの頃の気温を私たちは望むのでしょうか。

そういった長寿命温室効果気体が論じられる一方で、大気汚染に影響を与えるエアロゾルなどの短寿命気候強制因子（SLCFs）の存在も注目されています。近年、ヨーロッパや北米では規制の成果が上がって、汚染エアロゾルは減少し、大気はきれいになりつつあります。一方、東南アジア域では大気汚染は増加傾向にあります。汚染エアロゾルが増えると、地球が冷却されるとい説もあります。過去40年間の解析によると、東南アジア海域では熱帯低気圧の発生数が減少し、きれいになったヨーロッパや北米域では増加しているということが示されました（Murakami et al., 2022）。人間にとっては、熱帯低気圧による風水害は、少ない方がいいに違いありません。

国際海事機関（IMO）が2020年1月から船舶燃料の硫黄分を規制し始め、硫黄分が3・5%から0・5%以下へ強化されて、海ではきれいな燃料を使うことになりました。船舶からの二酸化硫黄の排出ガスが80%以上削減されたことになりました。これによって海上の大気汚染エアロゾル濃度が減少して、晴天が増えた反面、太陽から海洋に降り注ぐエネルギーが増加して、温度上昇を

引き起こすという報告が出されました。これは北大西洋、カリブ海、南シナ海などで顕著であり、これらの海域は最も交通量の多い航路だけに、変化も大きいわけですから（Yuan et al., 2024）。

大気汚染物質の影響は陸上の環境だけではなく、海を含めた地球規模での温暖化にも影響を与えることとなります。米国などではジオエンジニアリングで人為的に太陽放射を弱め、地球温暖化を抑制しようという研究分野の活動も進められています。

幕府時代、取賄が批判されていた老中、田沼意次が失脚して、清廉潔白な白河藩主が登場すると「白河の水はきれい過ぎて、かえって魚も住みづらい。昔のごつていた田沼が恋しい」と、人々は風刺しました。現在、瀬戸内海では水がきれいになり過ぎる傾向にあり、陸からの排水の基準を緩めて、栄養塩類の量を増やし、水産物を増やすための管理が進められています。とにかく汚染物質をなくし、徹底的にきれいにするという概念とは、逆の見直しも検討される必要があるかもしれません。

【訂正】256号秋号の記事に誤りがありました。P9上段「県民一人で年間841グラム」↓「県民一人で一日841グラム」



図 大気中二酸化炭素の地球平均、東秩父局、騎西局との濃度差の経年変化。地球平均と堂平山の東秩父局のわずかな濃度差変化に比べると、騎西局の高い二酸化炭素濃度は年々下がり、その差は減少しています。（Ohara et al., 投稿中）

参考文献

- Murakami, H. (2022) Substantial global influence of anthropogenic aerosols on tropical cyclones over the past 40 years. *Sci. Adv.*, 8, eabn9493.
 Yuan, T. et al. (2024) Abrupt reduction in shipping emission as an inadvertent geoengineering termination shock produces substantial radiative warming. *Commun. Earth Environ.*, 5, 281.



巳(蛇)の信仰を採訪する

秦野昌明

干支は、十干と十二支を組合せた六十年を周期とする数詞で、古代の暦をはじめとして時間、方位、順次等に用いられた。十干は甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸の十種類からなり、十二支は子、丑、寅、卯、辰、巳、午、未、申、酉、戌、亥の十二種類からなる。「え」と呼ばれるのは「きのえ」、「きのと」、「ひのえ」、「ひのと」等と陰陽に応じて「え」と「と」の音が入ることに由来する。本来の十干十二支とは自然界のエネルギーの循環、生命の流れ、季節の変化等を表していて、十二支では覚えやすくする工夫として動物の姿で語られる。なお、十二支に動物を充てるようになるのは後漢（西暦二五〇年～二〇〇年）の頃といわれる。

二〇二五年は乙巳の年。十干である「乙」は軋に由来し、草木が堅い殻を突き破り芽を出す状態を表している。十二支の「巳」は、植物の茎や葉の成長が最盛期に達した状態をいう。一方「巳」という漢字は、胎児を表す象形文字とされ「産まれてくる」、「子孫繁栄」、「明るい」、「未来」といった目出度い意味もある。十二支で巳に充てられた動物は蛇である。かつて、蛇は田畑を荒らす鼠などの小動物を捕食することから「豊穡の神」とされ、更に「農耕の神」、「水霊の象徴」へと転訛し「龍神」とも合同する（註1）地域もある。

巷では、蛇皮の財布を持つと金運が上がる、あるいは蛇の抜け殻を財布に入れて置くと金運が上がるともいわれる。蛇（巳）を携帯すると実（巳）入りがあるという語呂合わせである。蛇は二〜三カ月に一度脱皮し、活動的になる夏期は頻度が更に高くなる。脱皮を繰り返すことで身が成長するため「再生」、「豊穡」のイメージが持たれ、転じて金運、商売繁盛、長寿、子宝の象徴ともなった。現在では、蛇が脱皮するたびに身の傷が治癒していくことから、医療、治療、再生のシンボルともされている。WHOや医療機関等で「杖に蛇が絡みついているマーク」は「アスクレピオスの杖」と呼ばれよく知られている。

動物の中では異形である蛇は「神の使い」といわれ、中でも白蛇は弁財（才）天の化身とされた。筆者が小学生の頃、校内で上映された『白蛇伝』（註2）の映像美と

物語は感銘深い。さて、弁財天は河川にまつわるヒンズー教の女神であるが、奈良時代に伝来し八臂（八本腕）で戦闘神の弁財天と二臂で琵琶を持つ弁財天像がつくられ、鎌倉時代の宇賀神との習合で宇賀弁財天が登場すると信仰は大きく広がって行く。

鎌倉の銭洗弁財天宇賀福神社（註3）は、源頼朝が巳年である文治元年（一一八五年）巳の月、巳の日、巳の刻に宇賀神の夢を見たことに起源があるとされる。宇賀神は頼朝へ「この地に湧き出す水で神仏を供養（感謝）すれば、天下泰平の世が訪れる」というお告げを授けた。そこで頼朝は佐助ヶ谷の岩壁に湧く霊水を見つけ、洞を穿ち社を建てて宇賀弁財天を祀ったという伝承である。

弁財天は、江戸時代には福德・豊穡、諸芸能の上達の神、学芸・知恵の女神となり、七福神の一員に加わり財宝神としての位置が強調される。桜区田島の弁財天坐像は正徳三年（一七一三年）造立である。鴻沼川に架かる新開橋の南側袂に祀られており、高さ二・二mと市内で最大級の大きさである。頭上に鳥居冠を載せ、八臂の坐像。光背は宝珠輪である。台座に大蛇がうねっている。中央区上峰の円福寺の弁財天坐像は宝永五年（一七〇八年）造立である。頭上に白蛇冠を載せ、八臂の坐像である。桜区上大久保の水川神社の巳待供養塔も、宝永五年（一七〇八年）造立で、頭上に白蛇冠を載せた八臂の坐像である。さて、宇賀神は我が国古来の穀物神で、食膳の神、衣食を給する神ともいわれ平安時代以来、招福の神として広く信仰される。

中央区新中里の二度栗山弘法尊院（註4）境内には弁財天と宇賀神が祀られている。二度栗山の弁財天には次のような伝承がある。かつて二度栗山弁財天は、別所沼の弁天島（註5）や遠く上野の弁天池へ使いを出して、人々が水に困らないようにしていたという。ある日の夕暮れ時、志木へ客を運んだ帰りの人力車夫が別所沼の辺りで一服していた。すると、「車屋さん、二度栗山までお願い」と色白の娘が声をかけて来た。「へいっ」といって、車夫はかじ棒をにぎり大張りきりで二度栗山へ走った。大戸の新道を通り、弘法尊院の石碑脇を曲がって坂を下りた。四半時で二度栗山の石段下に着いた。

「娘さん、着きましたよ」と声をかけ、かじ棒を下ろし、ひよいと振り返ったら誰もいない。座席をじつと見るとシットリと濡れている。

「おかしいなあ、途中で落つことしたわけじゃあるまいしなあ……」

そう思案しながら、ふと石段の脇を見ると、今しも白蛇がズルツと茂みの中へ消えて行くところであった。普段は威勢のいい車夫も足がすくんでしばらく震えが止まらなかったという。二度栗山と別所沼の弁天島の間では、たびたびこんな出来事があったそう、車夫仲間の間ではこの白蛇は「弁財天のお使いであろう」と噂したという。二度栗山弘法尊院境内の宇賀神供養塔は、大正七年（一九一八年）の造立である。正面には「宇賀神」の文字と共に白蛇神が彫られている。現在も招福・豊穰の供養塔として信仰されている。

このように、歴史上の蛇は多方面でプラスの象徴であり商売繁盛としても親まれている。令和七年は穏やかな気候の中で作物が豊かに実り、皆さまのご家庭が福で満（白）たされますように祈念いたします。

(註1) インドの蛇神ナーガは仏教に取り込まれ、更に中国古来の龍神信仰と習合し龍王が誕生。中国の龍は角・四足・鱗のある蛇体で、水中に棲み雲や雨の動きをつかさどり、空を飛び稲妻を放った。弥生時代後期に日本へ伝来すると、蛇と龍が水を介し雨乞いや洪水・水難避けの神となる。出雲地方では「龍蛇」と呼ばれ、八百万の神々を出雲大社へ先導する役を務める。

(註2) 『白蛇伝』は昭和三十三年（一九五八年）東映作品。日本初のカラー長編漫画映画。心優しい青年「許仙」と白蛇の化身「白娘」の愛と、彼らを取り巻く擬人化された動物たちの冒険譚。

(註3) 銭洗弁財天宇賀神社は神奈川県鎌倉市佐助2丁目。通称「銭洗弁天」。巳年の正嘉元年（一二五七年）、五代執権北条時頼が霊水で銭を洗い一族の繁栄を祈願したことが「銭洗弁天」のはじまりと伝えられる。

(註4) 二度栗山弘法尊院は真言宗の寺。弘法大師の回国伝承の地。昭和三十年代まで西側に隣接し鉢泉付きのヘルスセンターがあり、大盛況を博した。

(註5) 別所沼公園は、大正十五年（一九二六年）東京深川の小島長次郎氏が戸にあたる稲荷下の湿地を埋立て野球場とプールを造り、周囲に桜を植え藤棚等も作り、沼の周囲には丸太と板で土留め囲いを造った。そして昭和二年、現在の江東区木場の洲崎弁財天を分社し弁天島と水蓮池を造り、遊覧地として「昭和園」と命名した。伝承に登場する娘は「龍蛇神」の使いである。戦前の別所沼では、藁で作られた大龍蛇神が練り歩く雨乞いの祭が行われていた。

◆桜区田島の弁財天坐像



◆中央区新中里「二度栗山弘法尊院」の宇賀神供養塔

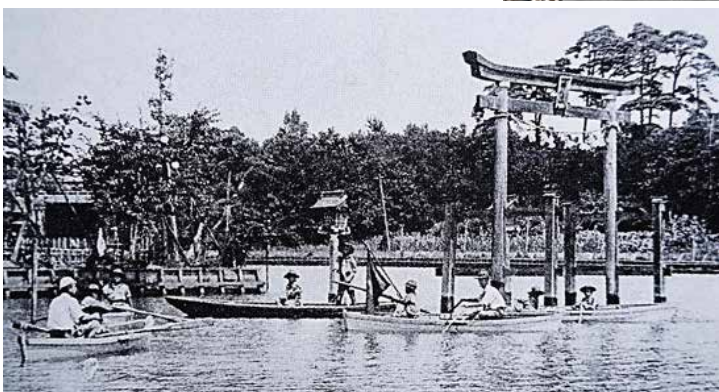


【筆者略歴】

昭和27年、浦和市北浦和に生まれる。父は浦和、母は大宮、妻は与野で育ち、我が家庭ではさいたま市誕生以前より三市合併が成されていた。こども時代は駄菓子屋通いと紙芝居を楽しみに、古老に街道の昔話を聞き、母の郷里に泊まり見沼の自然に遊ぶ毎日。昭和50年より文化財保護、社会教育等の業務に奉職する。



◆南区白幡「医王寺」薬師堂の蛙股「巳」彫刻



◆別所沼公園の弁天島（昭和初期）

社長さん、こんにちは

～人とのつながりを大切に～

積田冷熱工事株式会社

代表取締役 積田 鉄也 (つみた てつや) さん

【プロフィール】

【会社】

創業：1968年(昭和43年) / 所在地：さいたま市緑区大門2619 / 概要：空調、給排水衛生、太陽光発電設備設計施工

【代表】

1968年(昭和43年)8月6日生まれ、56歳。さいたま市浦和区出身。専門学校卒業後、積田冷熱工事に入社した。1995年(平成7年)に代表取締役に就任した。



▼父の背中を追って

積田冷熱工事(株)は、祖父の(株)積田電業社の傍系会社として1968年に父が設立した会社で、私が2代目になります。

高校卒業後、建築系の専門学校へ進学し、21歳で同社に入社しました。子供の頃、「プロ野球選手になりたい」などの夢を抱いていた人は多いと思います。私の場合は、幼い頃から父の働いている姿を近くで見ているので、大きくなったら父と一緒に働きたいと考えていました。そのため、迷いや不安もなく入社を決めました。

入社してまもなく現場で職人さんたちと一緒に汗を流して仕事を覚え、その後、現場監督、営業部長を務め、27歳のときに代表取締役に就任しました。現場で職人さんや先輩方から教わったこと、営業時代にお客様から学んだことが、その後の人間関係の構築に大いに役立つと感じています。

社長になって30年が経とうとしています。これまでで一番大変だったのは2002年の父の他界です。公私共に私を叱咤激励してくれた父を亡くしたことは、精神的にも体力的にも本当に辛い出来事でした。もっと父と一緒に仕事をしたかった、もっとたくさんのことを教わりたかったと今でも思います。しかし、辛い時期も社員の皆が私を支えてく

れたことで、会社も私も成長したと感じ、心から感謝しています。そして、常に感謝の気持ちを忘れないようにしています。

▼社員との交流を大切に

社員たちとは業務以外の交流も大切にしています。社員旅行や新年会、忘年会。また、「ツミタクラブ」という社内の野球チームでは、私も監督兼選手として参加し、社員間のコミュニケーションが活発になるよう努めています。

▼これから先へ

2021年、さいたま市浦和区元町からさいたま市緑区大門へ本社を移転しました。

新社屋では、社内外に植物をふんだんに取り入れ開放的な空間にすることで、社員が働きやすい環境を実現し、来客された方々からも高い評価をいただいています。

また、長男、次男が大学卒業後、金融機関に勤めていましたが2023年に同社に入社しました。現在、息子たちはそれぞれ異なる業務を担当しています。東京都葛飾区に昭和設備(株)、さいたま市北区に(株)CKKというグループ会社があり、いずれは息子たちにこの2社を含め経営を任せたいと考えています。

父の背中を追っていた私が、今では息子たちに背中を追われる立場と

なり、プレッシャーを感じることもありますが、より良い会社を目指すとともに、自分自身もさらに成長していくため、日々学び続けています。

▼税について一言

地域の子どもたちへの租税教育に関わった経験があり、社会人になる前から税について学ぶ必要性を感じていました。税金の仕組みを知ること、私たちが社会の一員としてどのように貢献しているのか、また税金がどこに使われ、自分たちの暮らしや地域がどう支えられているのかを理解することが大切と感じます。自分の生活や社会全体について考える力が育ち、より良い社会を作るための行動につなげるためにも、納税の重要性を常に心に刻んでいます。

